

第 5 回新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会の

開催について(2025 年 10 月 17 日)

中日本高速道路株式会社東京支社秦野工事事務所(神奈川県秦野市、所長・内田美範)は、2025 年 10 月 17 日に、新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会(座長：西村和夫 東京都立大学名誉教授)を開催しました。

検討会では、高松トンネルの工事区間の一部で脆弱な地山などが出現し、2022 年 9 月にトンネル切羽が崩落した事象を踏まえ、これまでに実施してきた調査、設計ならびに施工などについて審議をおこないました。

1. 議事要旨

(1) 第 4 回検討会議事概要

- 第 4 回検討会における議事を確認。

(2) トンネル掘削状況及びボーリング調査結果等

- トンネル掘削は 2025 年 10 月 15 日時点で東坑口から、上り線は 2,115.75m、下り線は 1,961m まで掘削完了。西坑口からは上り線 28m、下り線 178m まで掘削完了。
- 2024 年 9 月 11 日に発生した突発湧水により、2024 年 10 月 31 日まで掘削を一時停止し、対策を実施。その他の突発湧水や変状事象に対しても状況に応じた対策を実施。
- 前回検討会以降に追加調査として実施した超長尺ボーリング調査結果等より、不連続な地層が継続することが確認されており、断続的又は部分的に脆弱な地山の出現や湧水の発生が想定されるため、未掘進区間においても断続的に断層破碎帯が続いていると推定。
- ボーリング実施箇所や上下線切羽によって異なる地層が確認されていることより、今回の調査では把握できていない箇所においても断続的または部分的に脆弱な地山の出現や湧水の発生が想定されるため、調査結果や切羽状況を踏まえた対策の検討が必要。

(3) 今後の進め方

- 超長尺ボーリング調査等の結果を踏まえて、脆弱な地山や断層破碎帯については、これまでの支保構造や補助工法および湧水対策を継続していく。
- 切羽の状況等に大きな変化が生じた場合には、補助工法、掘削工法などの追加または変更を適宜検討して実施していく。
- 引き続き詳細な地質構造の把握やトンネル周辺の水抜きを目的とした短尺ボーリング調査等を継続していく。

以 上